

ほんのしるべ

# 青標

2019.  
3月号

2019年3月5日発行（毎月1回5日発行）  
通巻484号 昭和61年7月15日第三種郵便物認可





## マカオ 宏達圖書中心・本店

ノセ事務所

熊勢 仁



マカオを代表する書店は三店である。一・宏達圖書中心 二・商務印書館 三・星光書店である。中でも一番店は宏達圖書中心であろう。セナド広場から北上した先に水坑尾街がある。その三叉路に面して宏達圖書中心がある。店は地下で約一〇坪の広さである。市内一番の広さを誇るだけのことはある。教科書の発行権をもつ書店なので、信頼のおける書店になっている。

この店は文具売り場もあり、両方で一三〇坪である。店の商品構成は次の通りである。

外国文学、文学、古典文学、宗教、哲学、藝術、建築設計、補充教材

公共管理、法律、言語学習、字典辞典、電腦資訊、生活智慧、医薬保健、経済、社会、教育鋪道、流行文学、旅遊、撮影、児童書、教科書である。特色としては、児童書コーナーの充実していることである。この売場には教科書も陳列されている。

レジは入口にあり、女性二人が座っていた。お客様は何れも専門書を求めるタイプの人である。文具売場は学習文具、児童文具である。書店を意識した品揃えて企業向け文具はない。

店頭レジ脇の柱にベストセラー10が発表されていた。中に実用書が多く、中でもダイエット本に人気があった。いずこの国も同じだと思った。

その河原には、また雪の凍ったかたまり

がとろとろに残ってはいるけれど、

枯れた去年の草のあいだから、新しい芽が

まるで歌のようだ。

串田孫一自選

『新選 山のパンセ』（岩波文庫）より



## もくじ

世界の本屋さん 87

「書標」歳時記（3月）

著書を読む (88) 『網棚のうえのリヴァイアサン』

鎌田 伸弘 2

書標・書評 『世界のはじまり』ほか

特集 漫画になった文学 第10弾

はじまりの本おわりの本 11

今月のおすすめ

社会科学 18 コンピュータ 20

自然科学 21 医学書 22

人文科学 23 文学・文芸 24

文庫・新書 25 芸術 26

実用書 27 地図・旅行書 27

語学・辞典 28 児童書 29

インフォメーション 30

本屋うらばなし 「卵が先か」

※表示価格はすべて本体価格です。

## 『網棚のうえのリヴァイアサン』

鎌田 伸弘

詩集を出そうとかがえたのは、ちょうど一年くらいまえだった。

二〇一三年の秋に、ふとしたきっかけで現代詩人の野村喜和夫氏の主宰する詩の創作合評会に参加するようになり、それから詩を書きはじめた。

学生のころには、大学を母体としたちいさな劇団を率いて台本を書き、そのほか小説やシナリオなども書いてきたが、本格的に詩を書くようになったのはこのときからである。

はじめは詩（とくに現代詩）の持っている形式にとまどい、思うように書くことができなかった。しかし、かつて自分の書いていた戯曲は韻文の要素もかなりつよかったので、気負わずに芝居を書くように詩を書いてみたところ、これが思いのほかしくりときた。というより、自分にとっては水を得た魚のようであった。それからは眼のまゑが開け、片っぱしから書いた。

毎回の合評会で、野村氏からの確な講評と指導を受け、

五年がたった。氏から、そろそろ詩集というかたちでまとめたかどうかとの言葉をいただいた。量はもうじゅうぶんでしょう、と。氏そのひとことがわたしの背を押してくれ、それで刊行に踏み切ったのだった。

それまでは合評会のほかに、詩の専門誌への作品投稿で腕だめしをしていた。はじめはさっぱりだったが、しだいに各誌に取りあげられるようになり、自信もついた。それも刊行を決めた一助にはなっている。

とはいえ、詩集を一冊出したからといって、それで詩人として認めてもらえるのかといえばそんなことはまるでなく、加えて本の売れないご時勢である。詩集など誰が買ってくれるのかという不安はつねにあり、決意はしぜん揺れた。それでも氏より、詩集を刊行して世（詩壇）に問うべき時期に来ているというアドバイザーをもらい、再度決意を固めたのだった。

それからは編集作業に追われる日々がつづいた。基本的には自分ひとりでおこなっていった。どの作品を入

れ、どの作品を外すか。文字通り「編む」という作業さながらだった。楽しくもあり、苦しくもあった。

そのなかで、組版を快く引き受けてくれたフリーの編集者が、作品の順序を入れ替えることで受ける印象の違いをあざやかに指摘してくれた。これはたんなる組版を超えた編集だったといっているのではないかと思う。そのほか、手書き文字のページを挿入したらどうかとの提案もしてくれた。おかげで、だんだんと詩集らしい体裁を帯びてくるのが目に見えてわかるようになってきた。

一方では、自分なりに作業を進めるなかで見えてきたものがあった。これまでは投稿の持つ性格ゆえに、一作一作、独立して詩を書いてきた。連作のようなものもむろんあるにはあったが、それぞれは一篇で完結した作品だった。今回それらを一冊にまとめることで、一篇いっぺんがなにかしら有機的なつながりを持った詩集にすることは出来ないだろうかという思いが次第につよくなっていったのだ。

自分の詩は比較的長いものが多いため、はじめは二十篇くらいで一冊にするつもりだった。しかし有機的ということ念頭に置くと、それでは不十分な気がしてきたのだ。それで思い切って三十篇にしたのだが、これではさすがにボリュームがありすぎて逆に敬遠さ

れてしまうかと危惧し、出版元の社主に相談した。しかしそれは杞憂だった。たしかにこの分量ではある程度のものにはなるが、一気に読ませる勢いを持っているから決して気にならないと、これもありがたい言葉をいただいた。それで三十篇でいこうと決めた。自分としても、できるだけ多くの量を読んでもらったほうが、世界観を呈示することができるのではないかと、う思いもあった。

そのようにして出来あがったのがこの詩集である。

しかし、そうはいっても、詩を読み慣れている人ばかりでなく、そうでない人にも楽しんでいただけるように気を配ったつもりである。それこそ一篇いっぺんがどうというのではなく、あたかも一冊の小説かエッセイでも読んだ感覚を持っていたければ、と思っている。

作者としては、それがもつとも望むところである。



『網棚のうえの  
リヴァイアサン』  
七月堂・2,000円



## 『世界のはじまり』

バジュー・シャーム作・絵

タムラ堂・三六〇〇円

トラブックスをご存じだろうか？

近年、芸術書界隈をサワつかせる出版社で、その拠点は南インドにある。出版物は教養書から絵本・写真集など多岐にわたるが、特筆すべきは、ハンドメイド本であること。その名の通り手作りで、手漉きの紙にシルクスクリーンによる手刷り、製本も手作業で、すべてが人の手により丁寧に仕上げられている。

今回紹介する『世界のはじまり』は、インド中央部に暮らすゴンド族に伝わる世界創世の神話を基に、生と死、ゴンドの人々の地に根差した生活が描かれておりその絵はとても繊細で、一枚ずつ印刷されたページはそれぞれが一枚の絵画のような存在感を持つ。添えられた言葉は力を持ち、心に直接語り掛けてくる。

まず、本を開くとインクの匂いが広がり読み手を神話の世界へといざなう。ページをめくるたびに目に入る色の鮮や

かさはとても本の中とは思えない広がりを感じさせ、紙の手触りもシルクスクリーン印刷特有の凹凸も感じることができる。嗅覚・視覚・触覚が同時に刺激される面白い感覚、本という媒体ではなかなか感じることでできない体験を得ることができる。

少し前の本ではあるが今回紹介したのは、歳をとるにつれ、死について考えることも多くなる。子どもにとっては難しい事なのに、世界のはじまりになぞらえて聞かせると、ストンと納得がいく。生と死について書かれているが、テーマとしては重いものではなく、生きて死ぬということは生活の中に当たり前のよう存在し日常の一部である、ということをお話してくれる一冊だ。

(信)

## 『決戦！ 設楽原』

武田軍 vs. 織田・徳川軍

赤神 (旧字体) 諒ほか著

講談社・一六〇〇円

新進気鋭の歴史小説家たちが、ひとつの決戦を様々な人物の視点から描く、人気シリーズ第八弾の舞台は、織田・徳川連合軍三万八千と武田勝頼軍二万五千

が激突した「設楽原(長篠)の戦い」。本作はどれも素晴らしい作品ばかりですが、中でも武田びいきとして紹介したいのが、武川佑さんの「くれないの言」、武田四天王の一人で、赤備え(真田幸村や井伊直政も着けているアレ)で有名な山県昌景が主人公です。

師匠でもある先主・信玄に絶大な尊敬と愛情を持つがゆえに、二代目の勝頼と疎遠な関係になってしまった四天王(留守番の高坂昌信のぞく)が、勝ち目の薄い戦いの中に、少しでも可能性を見出そうと必死に挑んでいく様が本当にカッコいいです。

そしてもう一つ紹介したいのが赤神諒さんの「表裏比興の者たち」。

主人公の真田昌輝、全然知りませんでした。チート武将だらけの真田家に、まだいました凄腕。信玄をして「兵部(昌輝)は我が両眼なり」と言わしめた知勇兼備の名将(手元にある信長の野望のデータを見たところ、統率八十二の知略七十六!)。彼を中心に真田一族が「設楽原の戦い」と、どう向き合ったかが描かれていきます。

戦国時代の勢力図だけではなく、その

後の戦術方法までも大きく変えたエポックメイキングな戦いを、確かな筆致で重層的に楽しめる、本当におすすめの一冊です。

(市)

### 『侵略者は誰か?』

J・スタネスク、K・カミングス編

以文社・三四〇〇円

生きものたちは、環境の変化に対応しながら、自ら動くことよって生き残ってきた。生きものの移動・繁殖が、生態系のあり方をも、変化させる。そのしたたかさこそが、今もこの地球上に、生き物たちを存続させている。

その動きを、人類という、この地球上に生きる一つの種が規制する。「国境」はそもそも人類以外の生物種には存在せず、それゆえ「検疫」も無意味である。ところが人類は「外来種」を「侵略者」と見なし、生物種の存続／絶滅を、根柢なく、恣意的に左右してきた。

その恣意的な分類は、人類の仲間に対しても向けられている。「非在来種」への不寛容のレトリックは、移民・難民へのそれと、驚くほど似ている。

そのことは、ある真実を示唆している。

人類もまた、他の生物種と同様、この地球環境に居住し、他の生き物を食することによってしか存在しえない生きものである以上、地球環境に対して、超越的ではありえない、という真実だ。聖書の記述によると神があらゆる生きものの管理を許したとされる人間たちは、(神の意図に反して)どんどん高慢となり、動物を大量殺戮し、自らの存続を支えている環境の破壊を続けてきた。

生態系は、多様な生物種を欲待し、種の共成変化を可能にし、自らも変化していく(環境保存論者が夢想する、取り戻すべき「エデンの園」は存在しない)。そのことが解った時に、人類は「侵略者」とは自分たちのことであると、思い知るであろう。

(フ)

### 『科学用語図鑑』

水谷 淳文、小幡彩貴絵

河出書房新社・一八五〇円

昨年十二月、スウェーデンのストックホルムでノーベル賞の授賞式が行われ、ニュースや新聞でも大きく報道された。

授賞式の様子を見た人も多いのではないだろうか。それと同時に、ノーベル賞に

関する報道を見ても、言っていることがよくわからない、難しいと感じる人も多かったのではないだろうか。

ノーベル賞に関するニュースに限らず、自然災害が起きたときや流行している病気についてのニュースなど、解説している専門家が言っていることがよくわからず、難しいと思うことがある。それは、解説に出てくる科学用語が分からないというのが大きな原因のようだ。

例えばゲノム。ゲノム編集などの言葉を見聞きすることがあるが、遺伝子やゲノムなど似たような言葉が多く、どう違うのかがいまいち分からない。それ以外にも、人工知能。特に近年、頻繁に見聞きする言葉だが、はたしてその仕組みとはどういうものなのか。

考えてみると、知っているようで実はよく知らない言葉がとて多いことに気づく。

本書は、そんな、「聞いたことはあるけどよくわからない言葉」の解説書。読み進めるにつれて、よくわからなかった部分があつつきりと理解できるだけでなく、新しいことを知る楽しさを再発見できる。

(K)

## 漫画になった文学

## 第10弾

外国文学からはカミュの名作『異邦人』のバンド・デシネ版、オーウェルのつとに知られた『アニマル・ファーム』（動物農場）の石ノ森章太郎による漫画化、刊行から百六十五年を経た大ロングセラー『森の生活』のコミカライズ、日本文学からは井原西鶴、森鷗外、泉鏡花、尾崎翠、谷崎潤一郎、太宰治、村上春樹……。

「愛書家の楽園」恒例の漫画になった小説作品の特集です。今回も注目作・話題作が目白押し。漫画版を手取るか、原作を手取るか、はたまた両方を読み比べるか、傑作ぞろいのラインナップをお楽しみください！

連続フェア「愛書家の楽園」では、二〇一二年六月から足掛け八年、計十回にわたって「漫画になった文学」のフェアを開催してきました。今回は、その最終回となります。桜の花の咲くころに、本シリーズは「愛書家の楽園」を卒業いたしますが、きつとまた遠からぬうちに、リニューアルした姿でみなさまにお目にかかることでしょう。

アルペール・カミュ原作、ジャック・フェ

ランデズ作・絵、青柳悦子訳『バンド・デシネ異邦人』（彩流社・一八〇〇円）カミュ、窪田啓作訳『異邦人』（新潮文庫・四六〇円）

殺人の動機を「太陽のせい」と証言したムルソー。裁判が始まるや事態は思わぬ展開に……。『不条理文学』の代名詞ともされる『異邦人』、その息詰まる心理劇やカミュの思想、ギリギリとしたアルジェリアの大地といった作品のエッセンスを十二分に凝縮！



『アニマル・ファーム』

ジョージ・オーウェル原作、石ノ森章太郎『アニマル・ファーム』（ちくま文庫・七四〇円）

ジョージ・オーウェル、山形浩生訳『動物農場（新訳版）』（ハヤカワepi文庫・七〇〇円）

全体主義と独裁政治の恐ろしさを寓話

的に描いたオーウェルの『動物農場』を石ノ森章太郎がコミカライズした幻の傑作。五十年近い時を経て遂に文庫化。さらに小松左京原作「くだんのはは」、怪談牡丹燈籠をモチーフとした「カラーン・コローン」の二編も併録。



『ソロー『森の生活』を漫画で読む』

ヘンリー・デイヴィッド・ソロー文、ジョン・ポーサリーノ編絵、金原瑞人訳『シンプルに暮らそう！ソロー『森の生活』を漫画で読む』（いそっぷ社・二六〇〇円）  
ヘンリー・D・ソロー、佐渡谷重信訳『森の生活』（講談社学術文庫・一四五〇円）  
シンプルな生き方を提唱して、名著のほまれ高い『森の生活』。実際に読むと長大で難解なこの作品を、選び抜いたソローの文章とポーサリーノによるシンプルな描線で漫画化。「生きることは苦行ではなく、遊びなのだ。シンプルに賢く

生きてさえいれば」（ソロー）  
井原西鶴原作、毛利亘宏原案、松本花『鷹作 好色一代男』（全三巻、新書館・五九〇円）  
吉行淳之介訳『好色一代男』（中公文庫・九五二円）

放蕩のかぎりをつくし晩年を迎えた世之介は、伝説の楽園「女護が島」を目指す航海中に嵐に遭遇し船が難破。目を覚ました世之介は自分が若返っていることに気づく。船上に現れる謎の若い男。そしてかつて情を交わした女たち、男たち。向かうは地獄か天国か!?



『冬の王』

森鷗外原案、草森秀一『冬の王』（グラフィック社・二七〇〇円）  
森鷗外『森鷗外全集 第十二巻 於母影冬の王』（ちくま文庫・品切）  
森鷗外が『冬の王』として翻訳した、

ハンス・ランドの小説『Erlling』。これにインスピレーションを受け、キャラクターや世界観を独自に解釈、美術監督としての力を存分に注ぎ、驚くほど精緻に描かれた渾身のアートブック。本広克行（映画監督）絶賛！

波津彬子『波津彬子選集 第一巻 鏡花夢幻』（朝日新聞出版・七八〇円）  
泉鏡花『夜叉ヶ池・天守物語』（岩波文庫・四二〇円）  
流麗な筆致で描き出された傑作をセレクトした選集。第一巻は泉鏡花の三大戯曲「天守物語」「夜叉ヶ池」「海神別荘」を幻想的に描き出した、妖しく切ないロマンティック作品集。鏡花の夢幻の世界に住まう美しい人々が織り成す、ロマンスの行方は……。

田中貢太郎原作、近藤ようこ『暮の血』（KADOKAWA・七二〇円）  
田中貢太郎『戦前の怪談』（河出書房新社・一八〇〇円）  
艶めかしくも奇怪な、奥底の知れない恐怖に、男は絡め捕られていく——。将来を囑望された青年の歯車が、ある女性

との出会いをきっかけに、微妙に狂い出す」。怪談文芸の大家の傑作怪奇小説『黒雨集』に収録された退廃的怪異譚を、偉才が鮮烈に視覚化。



『第七官界彷徨』

尾崎翠原作、のぞゑのぶひさ『第七官界彷徨』（太田出版・三七〇〇円）

尾崎翠『第七官界彷徨・琉璃玉の耳輪他四篇』（岩波文庫・八一〇円）

「人間の第七官にひびくような詩」を書きたいと願っている赤いちぢれ毛の娘と、精神科医の長兄、肥料を研究している学生の次兄、音楽受験生の従兄弟の四人が、一つ屋根の下で暮らす生活。解説：三浦しをん、人と作品：近藤裕子（東京女子大学准教授）

谷崎潤一郎原作、元町夏央漫画『己』（既刊一、集英社・六〇〇円）

谷崎潤一郎『己』（新潮文庫・四九〇円）

禁断の愛に堕ちた人妻・柿内園子。年下の令嬢・徳光光子と出逢った一年半前の大阪天王寺から破滅の物語は始まった。四人の男女が絡みあう情欲の恋模様。昭和の文豪谷崎潤一郎が綴った傑作が、元町夏央のコミカライズによって甦る。

太宰治原作、伊藤潤二『人間失格』（全三巻、小学館・五五二円）

太宰治『斜陽・人間失格・桜桃・走れメロス外七篇』（文春文庫・七一〇円）

隣人の幸福が理解できない。なのに、主人公・大庭葉蔵が必死で身につけたのが道化だった。上京した葉蔵は堀木に誘われ、非合法活動に参加する。日本文学的不朽の名作をトップホラー漫画家・伊藤潤二が独自の表現で掘く。

村上春樹原作、J・Cドゥヴニ翻案、P・M・G

L漫画『HARUKI MURAKAMI STORIES シェエラザード』（スイッチ・パブリッシング・一八〇〇円）

村上春樹『女のいない男たち』（文春文庫・六五〇円）

週に二度「ハウス」の中で時間を共有する羽原と彼女。前世の話、少女時代の秘密……一度性交するたびに彼女はひとつ不思議な話を聞かせてくれる。まるで『千夜一夜物語』の王妃シェエラザードのように。漫画で読む村上春樹シリーズ全九巻、待望の第三弾！



『パースデイ・ガール』

村上春樹原作、J・Cドゥヴニ翻案、P・M・G L漫画『HARUKI MURAKAMI STORIES パースデイ・ガール』（スイッチ・パブリッシング・二六〇〇円）

村上春樹『めくらやなぎと眠る女』（新潮社・一四〇〇円）

二十歳の誕生日にレストランでアルバイトをする彼女は思いがけずオーナーと不思議な時間を過ごす。そこで彼女が語る、たった一つの願い。そして今、大人になり結婚をし、子どもも生まれ悪くな

い生活を送る彼女。誰もがふとした時に振り返る自分の人生と幸福。

佐山和夫原案協力、鍋田吉郎脚本、藤原芳秀作画『金栗四三物語 日本初のオリンピッククマランランナー』（小学館・一一五〇円）

佐山和夫「金栗四三 消えたオリンピックク走者」（潮出版社・一八〇〇円）

金栗四三はオリンピッククマランンの競技中に消え、五十五年近く失踪していた。箱根駅伝創設の目的はアメリカ横断レースの実現だった。マランソンにとどまらず、日本陸上界、女子スポーツ界発展の仕掛け人だった。この男を知らずして日本スポーツは語れない。



『罪の声』

塩田武士原作、須本壮一作画『罪の声 昭和最大の未解決事件』（全三巻、講談社・

六〇〇円）

塩田武士『罪の声』（講談社・一六五〇円）  
京都でテラーを営む曾根俊也。ある日、彼は父の遺品の中から黒革の手帳、そしてカセットテープを発見する。手帳には英文がびっしりと書かれており、さらには「ギンガ」萬堂という製菓メーカー

の情報が。実際に起きた未解決事件に迫るミステリー大作!!



『十二人の死にたい子どもたち』

沖方丁原作、熊倉隆敏漫画『十二人の死にたい子どもたち』（全三巻、講談社・六二〇円）

沖方丁『十二人の死にたい子どもたち』（文春文庫・七八〇円）

ネット上のホームページに導かれて、廃病院に集まった十二人の少年少女。初対面の彼らの目的は全員で「安楽死」すること。だが、決行するための地下室に

はすでに一人の少年が横たわっていた。異才・沖方丁の直木賞候補作を、実力派・熊倉隆敏が渾身の漫画化!

池井戸潤原作、大谷紀子漫画『空飛ぶタイヤ』（全二巻、講談社・四二九円）

池井戸潤『空飛ぶタイヤ』（全二巻、講談社文庫・六九〇円）

小さな運送会社が起こした脱輪事故。「整備不良」と下された結論に納得できない社長の赤松は、真実を証明しようと奔走するうちに、大企業の不正にたどり着き……!? 社員、そして家族を守るために闘う男を描いたエンタテインメント巨編、堂々コミカライズ!

恒川光太郎原作、奈々巻かなこ『夜市』（秋田書店・六〇〇円）

恒川光太郎『夜市』（角川ホラー文庫・五二〇円）

大学生のいずみは、高校時代に野球部のヒーローだった同級生・裕司に誘われ、ある不思議な場所に迷い込む。そこは、妖怪たちが様々な品物を売り、望むものが何でも手に入るといふ不思議な市場「夜市」だった。日本ホラー小説大賞受

賞作、『入魂』の漫画化！

なお、前回の第九回から今回の第十回開催までの期間には、本フェアで取り上げた作品のほか、以下のようなコミカライズ作品も刊行されています（一部であり、網羅性はありません）。ご興味を持たれた作品があれば、フェア展開作品とあわせてお読みいただければ幸いです。

江戸川乱歩原作、たくま朋正漫画『少年探偵シリーズ 怪人二十面相』（ワニブックス）

辻村深月原作、桂明日香漫画『スロウハイツの神様』（講談社）

明智憲三郎原案、藤堂裕漫画『信長を殺した男 本能寺の変四三一年目の真実』（秋田書店）

森博嗣原作、スズキユカ作画『赤目姫の潮解』（幻冬舎コミックス）

高殿田原作・ストーリー構成、ミナヅキアキラ漫画『メサイア』（講談社）

住野よる原作、桐原いづみ作画『また、同じ夢を見ていた』（双葉社）

北川悦吏子作、村田順子漫画『半分、青い』（KADOKAWA）

森見登美彦原作、かしのこおり漫画『太陽の塔』（講談社）

森絵都原作、紅柴るづる漫画『DIVE!!』（KADOKAWA）

柳広司原作、仁藤すばる漫画『ジョーカー・ゲーム』（マッグガーデン）

和田竜原作、吉田史朗漫画『村上海賊の娘』（小学館）

コナン・ドイル原案、竹内良輔構成、三好輝漫画『憂国のモリアーティ』（集英社）

道尾秀介原作、神海英雄漫画『瞬間探偵 平目木駿』（集英社）

新堂冬樹原作、東西漫画『ASK』（集英社）

林真理子原作、東村アキコ作画『ハイパーミディ中島ハルコ』（集英社）

原田まりる原作、荒木宰作画『ニーチェが京都にやってきて17歳の私に哲学のこと教えてくれた。』（小学館）

東野圭吾原作、沖本秀子・風祭壮太他漫画『コミック東野圭吾ミステリー』（秋田書店）

山田風太郎原作、せがわまさき漫画『忍法魔界転生』（講談社）

池波正太郎原作、細川忠孝漫画『真田太平記』（朝日新聞出版）

半藤一利原作（『昭和史』）、能條純一『昭和天皇物語』（小学館）

京極夏彦原作、志水アキ作画『鉄鼠の檻』（講談社）

阿佐田哲也原作、嶺岸信明劇画『麻雀放浪記』（双葉社）

林真理子原作、日高建男作画『西郷どん!』（KADOKAWA）

ヴィキイ・パウム原作、さそうあきら作画『バリ島物語』（双葉社）

佐々大河『ふしぎの国のバード』（KADOKAWA）

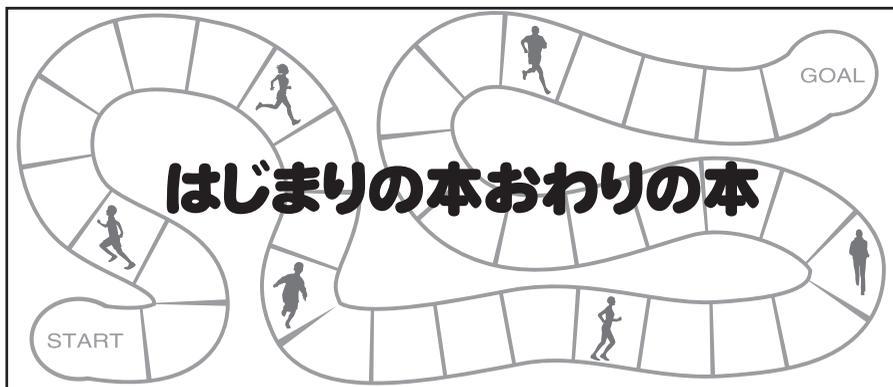
米澤穂信原作、佐藤夕子漫画『折れた竜骨』（KADOKAWA）

浅田次郎原作、ながやす巧漫画『壬生義士伝』（集英社）

\*全二巻以上の作品は、第一巻のみの定価を記しました。（作品社・青木誠也）

（作品社・青木誠也）

\*愛書家の楽園・特集「漫画になった文学第10弾」でご紹介した書籍は、ジュンク堂書店池袋本店一階エレベータ前と福岡店三階、丸善名古屋本店一階と京都本店地下二階にて、三月十日～四月九日までフェア展開中です。



## はじまりの本おわりの本

平成が終わり、新しい元号が始まる本年。ジュンク堂書店三宮駅前店では毎年この時期には店舗を上げて選書しフェアをしています。このタイミングを逃すわけにはいかないと、テーマを練りに練りましたが、結果タイトルの「はじまりの本おわりの本」となりました。

「はじまり」と「おわり」は表裏一体。おわりを目指してはじまるものもあれば、おわりからまた新たなはじまりが生まれます。人生、恋、物語。様々なはじまりとおわりをご堪能ください。

\*\*\*\*\*

### 『おしまいのデート』

(集英社文庫・瀬尾まいこ著・四四〇円)

収録されている五つの短編は、どれも心に響く素敵な物語。その中で「おしまいのデート」という短編を紹介したい。

両親の離婚後、慧子は母さんと住む。定期的に父さんに会っていたけれど、父さんの再婚後はじいちゃんとのデートが始まる。中学生の慧子と七十歳のじいちゃん。二人のやり取りからこれまで過ごしてきた時間がにじみでる。いつもの待ち合わせ場所、いつものソフトクリー

ム。二人のデートで定番となってきた、たくさん「いつも」。最後のデートの一日が物語となっているけれど、二人の「おしまいの」は新しくはじめるための「おわり」。それでも、二人の「いつも」がおわってしまうことに読んでいて胸がぎゅゅと切なくなる。「おわり」の先には新しい「はじまり」がある。希望に満ちた物語。

(豊島)



『おしまいのデート』

### 『カラフル』

(文春文庫・森絵都著・五四〇円)

死んだはずの中学三年生の「ぼく」がひよんな事から同じ時期に亡くなった「小林真」として期間限定で生活していく事になる。

生前の記憶がない彼は平凡な日常の中ではじめて出来た友人と戯れ、好意を持った女の子と会話のやりとり、と充実して

いるが、いい事ばかりではなく、家族の不仲や不義。さらに好意を持っていた女の子が援助交際をしていたことも発覚。

辛く、自暴自棄になっても彼は進んだ。人の手を借りて、確実にゆっくと。そして彼は、「小林真」として再びはじまっています。  
(中光)

### 『リブレ』

(新潮文庫・K・グリムウッド著・七九〇円)

主人公ジェフは四十三歳にして死亡する。そして、気が付くと十八歳の大学生の頃に戻っていた。人生が終わり、また始まる。知識も記憶もそのままのため、競馬や株で大金持ちに。しかし、来る四十三歳の同日同時刻、死亡する。そして、また十八歳の頃に戻っている。人生が終わり、また始まる。

人生をやり直すことができたらという人間の究極の夢を描いただけの物語ではなく、ジェフは何度も繰り返す人生のその先に、かけがえない唯一の人生を見つけ出す。読了後、きつとあなたは、今のあなたの人生を肯定し、周りのすべてに感謝する。  
(堀内)

### 『重版出来!』

(小学館・松田奈緒子著・既刊十二、①)

(⑤五五二元、⑥五九一元)

以前ドラマ化もされたコミック作品で、主人公の黒沢心が奮闘しながら成長していくお仕事ストーリー。出版社興都館で新人編集者として配属され、仕事の楽しさを感じたり、時には壁にもぶつかったりしながら仕事をしていく姿は、まさに社会人としての「はじまり」を表している。これから社会人になる方はもちろんのこと、すでに社会人として働いている方も自身の新人時代と重ね合わせて読んでみてください。きつとあなたの心が動き出してくるでしょう。  
(安見)

### 『チーズはどこへ消えた?』

(扶桑社・S・ジョンソン著・八三八円)

「もし恐怖がなかったら、何をするだろう?」自分に質問してみました。私は恐くて行動が起こせない、もしくはこれ以上悪化するのが嫌で仕方なく行動を起こしていました。でもそれはしんどいと感じていました。

人生においてははじめないといけない何か、終わらせないといけない何か、人

それぞれあるのでしょうか。この本を読んだ、自分もチーズを探しに行こうと思いました。見つけたチーズが美味しいのかどうかはわかりませんが、色んな味のチーズを食べていこうと思います。このままで良いのかな?と感じながらもなかなか変われない人に、この物語を読んでもらいたいと思います。  
(伊勢)

### 『姑獲鳥の夏』

(講談社文庫・京極夏彦著・九二〇円)

作家がそれぞれの作品にちなんだ異形で戦う『文豪ストレイドッグス』に京極夏彦が登場するという情報が出た時「本で物理攻撃かな?」と話題になったくらい、彼の著書は分厚いイメージがある。すべてはここから始まった。今はライトノベルでもかなりのページ数がある作品があるので、この本を見ても驚かないかもしれないが、はじめて講談社ノベルスで見た時の感想はなにもまず「太い」だった。しかし百鬼夜行シリーズを読み進めていき、久しぶりにこの一作目を手にとるとびっくり。「細い!」と思ってしまうのだから、慣れとはおそろしい。  
(清瀬)

『クビキリサイクル 青色サヴァンと戯言遣い』

(講談社文庫・西尾維新著・七八一円)

私が初めて読んだ小説です。本に全く興味のなかった私に職場の友人が勧めてくれました。内容はミステリーですが、シリーズが続き、異能バトル物にシフトしていきます。

本を読む習慣のなかった私の人生を見事に破壊してくれた作品です。内容を語るのも悪くはないですが、敢えて言いません。ぜひ、手に取って読んで欲しい。

本を読む人生の「はじまり」と本を読まない人生の「おわり」をくれた一冊を。

(奥原)

『ブックの音が』

(新潮文庫・星新一著・四三〇円)

ノックの音がした——。全てがこの一文からはじまる。この文から読み取れるように、事件は室内で巻き起こる。サスペンス・ミステリー・コメディなど、十五のショートショートが掲載されている。

扉の向こうにはどんな人物がいて、なぜ部屋を訪れたのか。冒頭からどんどん

引き込まれ、驚かされ、時に裏切られる展開に、ワクワクが止まらず、そしてそれがとても心地よく感じる。はじめて読んだのは中学生の頃だったが、また何度も読みたくなる、おすすめの一冊。(余田)

『しろくまちゃんのほっとけーき』

(こぐま社・わかやまけん作・八〇〇円)

これは、私が覚えているなかで一番初めに読んだ本。正確には「読んでもらった」のだが、一番気に入っていた絵本で、何度も繰り返し母に読んでもらった記憶がある。お気に入りのはしろくまちゃんがある。お気に入りのはしろくまちゃん材料を混ぜ合わせるシーン。「だれかほーるを おさえてて」という文に、自身がこぼれないよう一生懸命絵のボールを押さえていた。「ぶつ。ぶつ」「しゅつべたん」とホットケーキを焼く絵と音は、そこから匂いがしてくるようだった。

先日、この絵本を家で見つけた。まだあったのだと読んでみる。しろくまちゃんがボールの中身をかき混ぜる。「こなは、ふわふわ ほーるは、ごとごと」私の手が、自然とボールに伸びていた。(佐藤)

『モンテ・クリスト伯爵』

(白泉社・森山絵風著・八〇〇円)

騙され裏切られ、囚われの身となったエドモン・ダンテス。十四年もの間牢獄で過ごし一度は絶望するが、新たにモンテ・クリスト伯爵となり舞い戻ってくる。自分を陥れた人間に次々と不幸をもたらす復讐するが、やがてその復讐にも終わりの時がやって来る。その時彼は愛しい女性と新たな一歩を踏み出すのだった。

再生と終焉を繰り返す、まさににはじまりとおわりの物語といえよう。(皆木)

『火の鳥 黎明編』

(角川文庫・手塚治虫著・八八〇円)

百年に一度火山に身を投げ生まれ変わる火の鳥——はじまり・おわりを繰り返す不死の鳥、火の鳥を巡る人々の時代を超えた悲喜こもごも様々な感情を描いた手塚先生の大作です。

シリーズなのでどこから読んでも問題はないけれど、どれを読んでも何か心が引つ掛かり、結局全部読んでしまっています。手塚先生の構想ではまだまだ続きがあったという『火の鳥』、永遠に終わらない物語です。(小川)

『ことり』

〔朝日文庫・小川洋子著・五八〇円〕

人間の言葉をしやべらないかわりに、小鳥の囁きを理解し愛した兄。兄の言葉が唯一わかる弟。後に「小鳥の小父さん」と呼ばれるこの弟の、はじまりからおわりまで、人生をひっそりと綴った本。

淋しく、切なく、物哀しい小父さんのあまりにも静かな人生。でも決して不幸ではなかった小父さんの人生。読んだ人の心にしっとりとした何かがきつと残ります。(荒木)

『55歳からのハローライフ』

〔幻冬舎文庫・村上龍著・六〇〇円〕

定年を指折り数えるようになる五十年代は、来し方行く末を想うと悩みもひとしおなのだと思えます。離婚して結婚相談所に通う女性の話や、妻とともにキャンピングカー生活を送ろうとするも拒絶されてしまう男性の話など、セカンドライフに差し掛かった人々の希望や葛藤を短編で描いた作品。まだ働き盛りであつてもいつかは訪れる会社員の、おわり、そして第二の人生の、はじまり、を垣間見てみませんか。知らないうちにこの一

冊があなたの次の扉を開ける道しるべになつていくかもしれません。(安見)



『死の帝国』

『死の帝国』

〔創元社・P・クドウナリス著・四二〇円〕

主にカトリック圏内において、遺骨を用いて壮麗な装飾を施した納骨堂が数多く存在する。「どうしてこんなことが？」と、現代の感覚からするとそれは恐ろしく奇妙に思え、嫌悪感を抱く人もいるかも知れない。だがこれらは「死」が日常のすぐ隣にあつた時代、死者と語らう場所であつただけだ。

本書はそのような世界各国の納骨堂を、圧巻の写真とともに約七十ヶ所紹介。当時の人々の思いを感じ取ってみて欲しい。(林)

『ごめん買っちゃった』

〔光文社・吉田戦車著・一一〇〇円〕

原始人の様な自給自足のサバイバル生活でもしていない限り、食品や服など生きていけば必ず何かしらを買う。買うという目的を達成した時、「買う」という物語は終わり、その買った物との物語が、新たに始まる。つまり、本書には六十二もの物語の終わりと始まりが収録されている事になる。なんとも贅沢な話だ。

不条理ギャグ漫画の名手、吉田戦車は一体何を買ったのか、なぜ買ったのか、そしてどうなったのか、読了後物欲の増す一冊だ。(瀬口)

『この世界が消えたあとの科学文明のつくりかた』

〔河出文庫・L・ダートネル著・九八〇円〕

大破局が仮に訪れ、この世界が消えたとしたら、という思考実験。可能なかぎり早く復興するには、どんな知識が必要となるのかを提案し、どう活用すればよいかの例示されている。いまの生活が、積み重ねられた知識の恩恵の上になり立っていることを改めて思い知らされる。(石上)

『ありがとうって言えたなら』

(文藝春秋・瀧波ユカリ著・一〇〇〇円)

著者の母親がすい臓がんと診断されてから亡くなるまでを綴ったコミックエッセイ。マイペースな母親に家族が巻き込まれ、自分達に何が出来たのか試行錯誤しながら接する家族。日に日に痩せ細っていく母親、死が迫っていることを感じて、辛くなったり、自分勝手な言動に苛々したり。闘病生活は本人だけではなく、家族も疲弊する。この本はその辛さを時に笑いに変えて、私達に届けてくれます。亡くなるところはやはり心が締め付けられますが、二年前に祖父が癌で亡くなった私は少し救われる思いでした。(永井)

### 『雪猫』

(講談社・大山淳子著・五六〇円)

「死」は、終わりと同義だと思ふ。死後の世界という認識や幽霊という存在もやはりするが、それが本当に有ろうと無かろうと、現在生きている私たちにとっては自分たちの領域からいなくなるのだから、それは終わらぬ。『雪猫』は、命と生き方の話。十年生きた猫は、一つ特別な能力を得る。家に閉じ込められてい

る猫は空を飛び、文字を書けるようになりたい猫はペンを取る。ただし、「人間になりたい」そう願った猫は命を削ってその力を使うことになった。長らえて大切な人の側にいるか、自分を犠牲にしても大切な人を救うか。ラストシーンはいくなくも猫らしい。(佐藤)

### 『茶色の朝』

(大月書店・F・バヴロフ著・一〇〇〇円)

この物語で「茶色いもの」それは権力や支配。フランスでは茶色はナチスを連想させる色という。やがて新聞は「茶色新報」しか読めなくなり、図書館の本やラジオも茶色に染められ、猫や犬までも茶色以外は処分されてしまう理不尽な世の中に、最初は戸惑いながらも、次第に慣れてしまうふつうの人々が主人公だ。権力による支配は知らないうちに生まれ、国の有り様や価値観を変えてしまふが、世の中の違和感や不穏な空気には始まりがある。それを感じた時にどう対応するのが大切だと感じ、考えさせられた。(田邊)

『天の火をぬすんだウサギ』

(評論社・J・トゥロートン著・一三〇〇円)

まだ地上に火がなかったころ、天の人から動物たちが火をぬすんでくる神話の絵本。地上まで動物たちが火をリレーする中で、ウサギやカラスがなぜ今の姿になったかという由来が描かれています。神話には多くの始まりが書かれていてとても興味深いです。(藤原)

『白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい』

(新潮文庫・小山鉄郎著・四三〇円)

私たちの生活に欠かせない漢字。しかし、その成り立ち・はじまりを知る機会はなかなかありません。この本は、時に「面白い！」時に「怖い！」と感じながら、漢字の成り立ちを学ぶことができます。活字離れが進む今だからこそ、漢字のはじまりに触れてみませんか？(樋口)

『男のええ加減料理 60歳からの超入門書』

(講談社・石蔵文信著・一四〇〇円)

仕事一筋で頑張った男性が定年退職後、時間を持て余しうつ病になるのを防ぐための解決策として「自分で料理をす

る」ことを提唱する著者の料理本。調理器具は土鍋一つ、調味料も一つで作れる、本当に簡単なレベルのレシピからはじまっています。後片付けも料理のうちですが、土鍋一つなので片付けも簡単。中高年の男性向けとなっていますが、料理初心者が挑戦する時、忙しいおひとりさまにも最初におすすめしたい本。(平野)

### 『死役所』

(新潮社バンチコミックス・あずみきし著・既刊十二、各五六〇円)

「死」は「おわり」というイメージがある。しかし、はたして本当に「死」は終わりなのだろうか。もしも、死から始まる新たな人生が続いているとしたら……。そんな「死後の世界」を描いた物語。

罪なき者は天国へ、罪深き者は地獄へ。

こころは、病死、事故死、自殺、死者たちが自分の死の手續きをする「死役所」。様々な死者たちが登場し、生前の記憶、抱えていた問題、死の真相に迫る。「死人に口なし」というが、まさしくこの物語はそれを表している。必ずしも死んだ者の思いが残された者に伝わっているとは

は限らない。グッとくる感動の話もあり、ば、後味の悪いパッドエンドの話もあり、様々な「死」を集めた短編集のようである。読後ふと、死ぬまでに今できることは何かと考えさせられるだろう。(浅木)

### 『古今和歌集 現代語訳付き 新版』

(角川ソフィア文庫・一一六〇円)

日本で「はじめて」の勅撰和歌集、と文学史で習いはするものの、それに収められた和歌をじっくり読んだことのある人は少ないのではないだろうか。

「世の中に たえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」など聞いたことのある歌や、百人一首に採用されている歌も多く、平安時代の歌人たちが詠んだ数々の名歌は、現代を生きる我々の心にも、響いてくるものがある。(薔本)

### 『ストーナー』

(作品社・J・ウィリアムズ著・二六〇〇円)

一冊の本に人生の始まりから終わりまでがすっぽり入っている。農場生まれの一人の男が大学へ行き大学教授となり死んでいく、ただそれだけの物語。それだ

けの物語なのに、心に響くものがある。それは美麗な文章によって描かれる「悲しみ」、そして「愛」だ。

この物語のトーンはこの本の表紙のようなうつつすらとしたグレーで、主人公ストーナーの人生の中にあり、そして誰の人生の中にもそこはかとなくある「悲しみ」に私たちは共感し、様々な形の「愛」に心を揺さぶられる。

一九六五年に書かれた作品ながら、なかなか日の目を見なかったのもこの作品らしく、魅力的だ。また「訳者あとがきに代えて」のエピソードにさらなる感動があった。第一回日本翻訳大賞「読者賞」受賞。(堀内)

### 『戦雲の夢』

(講談社文庫・司馬遼太郎著・八八〇円)

四国を統一した長宗我部元親を父に持つ武将・長宗我部盛親が不遇な時を経て、何をなすべきか自らに問い続け、その答えを求めため、再び旧臣を率いて大坂城に入城し、大坂の陣にて劣勢の中、最期まで男の生き様を貫こうとした物語。

関ヶ原の戦いを前に、偉大な父が死去したことから、土佐二十二万石の領主に

なった長宗我部盛親。関ヶ原の戦いで西軍に与し、何もなすことなく戦況をただ無為に傍観するうちに敗北。領国を失い、一介の牢人として辛酸を嘗める日々を過ごす。家臣たちを路頭に迷わせることになった自分を顧みて、深く後悔する。

なすべきときになさなかつたことは、もはや取り返しがつかない。だが、それがわかっていても頼りにしてくれる人達の希望となる自分がいれば、その期待に応えようと力の限り奮戦する。それもまたリーダーの努めなのかもしれない。

(野々村)

『あさになったのでまじをあけますよ』

(偕成社・荒井良二作・一三〇〇円)

にぎやかな街にも森の中にも海の上にも、この世界中のあらゆる場所に、平等に朝は訪れる。命あるもの全てに新しい始まりがある。

「日常」というものが、簡単に失われることもあると痛感した今だからこそ、当たり前のことがいかに幸せかということをかみしめたい。

(池畑)

『このあとどうしちゃう』

(ブロンズ新社・ヨシタケシンスケ作・一四〇〇円)

亡くなったおじいちゃんが残したノート。そこには「死んだあとどうなりたいか」が書かれていた。おじいちゃんが色々描く楽しい計画、でもそんな風に考えないといけないくらいに実はおじいちゃんは死ぬことが怖くて寂しかったんじゃないかと思う男の子の優しさに、涙が出そうになる。本当にこんな風だったらいいよね、と残された人が慰められ夢を見られる終活も悪くない。「死」は終わりでなく新たな始まりのように感じることができるから。

(池畑)



『かないくん』

『かないくん』

(東京糸井重里事務所・谷川俊太郎作、松本大洋絵・一六〇〇円)

『かないくん』は日常に訪れた死を、

繊細な文章と優しい絵で静かに綴っています。その文章と絵のリズムに流されるように、ページが進むにつれてなんとなく死がそれほどネガティブなことではないような気がしてきます。

この絵本の終わりには、「始まった」と書かれています。死は「おわり」ではなく、何かの「はじまり」なのかもしれない。読み終えて感じるのはきつと、特別なこと。大切にしたい一冊。(柳井)

『「いる」じゃん』

(スイッチパブリッシング・くどうなお

こ作、松本大洋絵・一六〇〇円)

この絵本はほとんどモノクロで描かれているのに、カラフルな世界が広がるようです。それはきつと、まっすぐでシンブルな言葉たちがいるから。会話できるものだけでなく、ダンゴムシや太陽、地球にまで「ウッス」と言える。だつてそこに「いる」から。ずっと昔に忘れていた純粹なものが蘇ってくるようです。

「今日はいつものはじめて会うようにやってくるね」日々をそんな風に迎えられたら素敵ですね。

(柳井)

(三宮駅前店 スタッフ一同)

今月の  
おすすめ

社会科学

法律から見えてくる

「金融」の未来

池田成史著

一九七〇年代アメリカで打ち立てられた「ブラック・シヨールズ方程式」の理論により、金融工学が確立した。デリバティブ取引や、IT革命がもたらした仮想通貨の誕生など、発展するにつれ複雑化していく金融の世界を、金融関連法（銀行法や金融商品取引法等）で読み解いていく。

金融の歴史を踏まえつつ法律との密な関係が分かり易く解説されており、金融の入門書としても読むことができる。また、その関係性を知ることによって金融の未来を予見できるかもしれないとし、金融関連法を知ることが今後の自らの行動を変えるきっかけになり得るのではないかと感じた。

クロスメディア・パブリッシング

一六八〇円



FACTFULNESS  
ハンス・ロスリング他著

発売から爆発的に売れ続け、早くも今年のベストと言えそうなのが本書。我々がいかに思い込みで囚われて世界を見ているかを鮮やかに示してくれる。

冒頭に、世界についての十二の設問がある。例えば極度の貧困状態にある人は過去二十年間で半減が正解だが、倍増・変化なしとの三択なのに正答率は七％。なぜこんなに世界を間違って捉えてしまっているのか。それは知識不足でもメディアのせいでもなく、人の本能に由来する十の思い込みのためだという。きつと思いがたまる節があるはずだ。情報が氾濫する世の中で正しく物事を考えるために、今まさしく求められるべき一冊。

日経BP社

一八〇〇円



21世紀の戦争と平和

徴兵制はなぜ再び必要とされているのか

三浦瑠麗著

著者は国際政治学者。世界平和の維持・構築と「徴兵制」をテーマに、平和を確かなものにするための「国内政治の仕組み」の創りかたを捉え直そうとする書。

現在も徴兵制を実施している韓国やイスラエル、ヨーロッパ各国の事例から、徴兵制は戦争に備えた戦力の維持・増強という目的だけでなく、国民の安全意識や治安維持、国民統合を目的とするものまでさまざまであり、グローバル化が急速に進展し国際秩序が大きく変わっていく中で、国民国家というまとまりを維持し、国民の安全を保つための手段としても用いられていると論じている。

新潮社

一七〇〇円

## ビギナーのための国民投票Q&A

今井 一著

私たち日本の主権者・国民が一度も経験したことがない国民投票。その制度や実施事例について理解するための一冊。

イギリスのプレレジット（EU離脱）

問題でも身近に知られるようになった国民投票とは何か、わかりやすく解説する。

〔国民投票／住民投票〕情報室

一一〇〇円

\*本書は発行元との直販品。ジュンク堂書店難波店のみ取扱あり。

## 自治体の「台所」事情

### 「財政が厳しい」って

### どういふこと??

今村 寛著 著者は福岡市の中小企業

振興部長。財政課長をしていた時に始めた出前講座を書籍にしたものである。

財源不足を目の前にして、市役所をあげて財政健全化に取り組むために、市役所内で財政についての講座を始めたことがきっかけだとのこと。それが市役所外部にも広がる中で、熊本県庁のグループが開発した対話型自治体経営ゲームを取り入れてさらに発展した内容で出前講座を

するようになり、全国各地に出向くという。自分たちの自治体の事業と財政について対話する機会を作り、市民も参加できるようにして、まちづくりを考えるきっかけを与えてくれる。

ぎょうせい 一九〇〇円

## 経済学者の勉強術

いかに読み、いかに書くか

根井雅弘著 本書は経済学者、そして

書評家としても活躍する著者の、読書に対する考え方、さらに文章のまとめ方に

触れられるのももちろん、読書の神髄にも迫る一冊と言える。難しい経済概念を

取り上げてはいる訳ではないので、本書で述べられている根幹は、経済学専攻でなくとも十分理解できる。ぜひ本書を読み、

読書という行為を、人生においてより有意義なものとして欲しい。

人文書院 一八〇〇円

## インパクトカンパニー

神田昌典著

著者は、コンサルタントとして独立し、多数の成功企業やベストセラー作家を育成している。

日本の企業で大部分を占める中小企業

の中で、経済成長しながら事業を通じて社会問題の解決を目指す企業をインパクトカンパニーとし、地方のローカル企業でも世界的企業として成功した自動車部品会社や独自のカット法を開発した美容

室などの例が多数記載されている。

後半には顧客を創造するためのシナリオ構成法がまとめられてあり、著者の企業論二十年の集大成となっている。

PHP研究所 一六〇〇円

## しよぼい起業で生きていく

えらいてんちよう著

弱冠二十七歳にして系列店を十店舗以上に広げた起業家にして、YouTuberでもあるえらいてんちよう氏初の著書。嫌

なことから逃げながら無理せず生きることを目的とした、従来の起業本とは一線を画した「ライフスタイル」としての起業を提唱した一冊である。

『しないことリスト』のPha氏、『発達障害の僕が「食える人」に変わったすごい仕事術』の借金玉氏といった、今注目

の著述家との対談も興味深い。

イースト・プレス 一三〇〇円

**今月の  
おすすめ**

**コンピュータ**

**ダークウェブ・アンダーグラウンド**

木澤佐登志著

Googleの検索アルゴリズムから逃れ、政府の監視も届かないと言われるダークウェブ。ポルノやドラッグの売買といったダークな実情がある一方で、殺人請負はほぼ全てが詐欺と断言するなど、虚実入り乱れるダークウェブの実態を暴く。さらにダークウェブ成立までの過程では、自由なインターネット空間への渴望と、その実現を目指すハッカー精神があったことを見てとることができる。

イースト・プレス 一八五〇円



**入門監視**

Mike Julian 著 松浦隼人訳

監視とはシステムがきちんと動いているために行うものだが、その範囲はフロントエンドからサーバー、ネットワークとシステム全般に渡る。前半は何がよい監視で、どのような監視は無駄かという基本原則を紹介し、後半ではよいアラートの作り方など実践的なメソッドをまとめている。インフラエンジニアだけでなく、システムに関わる人全てが読むべき良書。

オライリー・ジャパン 二八〇〇円

**OAuth 徹底入門**

Justin Richer 他著 須田智之訳

OAuthはWebサービス間でのAPIアクセスを認可するプロトコル。身近な例では「TwitterやFacebookと他のアプリの連携などにも使われている。しかしその仕組みについてきちんと理解せずに実装すれば、情報の流出など重大な脆弱性をもたらす危険性も併せ持つ。プロトコルの基礎から様々な脆弱性の回避までを網羅したOAuthの専門書は、和書では本書が初となる。

翔泳社 四二〇〇円

**ドローンプログラミング**

春原久徳他著

測量に物流、防災など様々な局面での活用が期待されるドローン。かつてのスマホアプリ開発ブームのように、今後ドローンアプリの需要も高まるであろうことは想像に難くない。本書は国内ドローンシェア七割を誇るDJI社のアプリ開発キットの概要から、ドローンからカメラ映像を取得するAndroidアプリの実践的な開発手法までを解説している。

翔泳社 三四〇〇円

**Autoware**

自動運転ソフトウェア入門

加藤真平他監修 安積卓也他著

レーザーやカメラによる高精度な自己位置推定、ディープラーニングを用いた歩行者の検出など、自動運転は様々な技術の高度な集合体だ。Autowareはその基盤となる部分を提供してくれるオープンソースソフトウェア。PC上でのシミュレーションも可能なので、この歯ごたえのある題材に興味があるエンジニアは、ぜひ本書を手にとってほしい。

リックテレコム 三〇〇〇円

## 今月の おすすめ

### 自然科学

#### 科学史ひらめき図鑑

世界を変えた科学者

70人のブレイクスルー

杉山滋郎監修

スペースタイム著

かつて天動説は常識で有機化合物は人工合成できないのが当たり前だった。しかし今日の常識がいつの世も通用するとは限らない。フライパンでおなじみのテフロンやタッチパネルの導電性ポリマーなど、今当たり前に恩恵に浴している技術の多くは実はとんでもない代物なのだ。

この本は医学に物理に天文学にとジャンルを問わず、世界をひっくり返した七十の発明発見がどのようにしてもたらされたかを豊富なイラストでわかりやすく示したものだ。さらに「複雑な問題に直面したときはシンプルな状況に置き換えで考えようと解決しやすい」（ガリレオの落体の法則の項）など、頓挫した科学者たちが突破口を見出した「ひらめき」を

実生活にも役立てようというビジネス書の側面も有する欲ばり仕様の一冊だ。

ナツメ社

一八〇〇円

#### 公衆サウナの国フィンランド

こばやしあやな著

数年前から日本でサウナがブームだ。

どうやら銭湯や温泉とは違った魅力があるらしい。その発祥の地はフィンランド。古くから公衆サウナが人々の憩いの場であった。本書では、現地在住の著者が本場のサウナ事情をレポートしながら、フィンランドにおける公衆サウナ再興例を紹介する。

考えてみれば、裸という無防備な状況で、他人と安心して空間を共有するというのはなかなかハードルが高い。それも公共施設において。その点についての考察がおもしろく、フィンランドと日本の類似性も発見できた。

銭湯文化が衰えつつある日本で、サウナは新たなサードプレイスになりうるか？ また、銭湯は復興できるのだろうか？ 単なるブームで終わらせず、その次の展開を考える人には必読の一冊だ。

学芸出版社

二〇〇〇円

#### 今西錦司

生物レヘルでの思考

今西錦司著

八十五年の生涯で、千五百以上の山に登った学者の足跡を辿るには、自然科学のみならず、多様な学問の知の研鑽と実践が必要となるのだが、本書ではとりあえず、その全容をほんやりと把握することは可能であろう。いや、むしろその龐大さを知るに詠え向きの書であると言いうこともできる。畢竟するに、彼が登山によって得た知見は、自然科学や社会科学などの専門的学問が到達した場所、あるいは未だ到達していない次元にまで届きえている。

「宗教について」の章では、人類を一体化する共通基盤として、科学ではなく「世界宗教」なるものを思考するものであるが、それが決して長続きするものではないと結論づけている。その思考が押し上げられるのは、およそ二十五年後、柄谷行人『世界共和国へ』（岩波新書・八二〇円）を待たねばならなかった。そこで問われる「普遍宗教」の答えもまた、山の中にあるのかもしれない。

平凡社

一四〇〇円

今月の  
おすすめ

医学書

誰にも聞けない開業医のための  
悩める初診外来

永井賢司著

病院勤務を経て内科開業医を十四年余り続けている著者が、自身の外来診療の経験を基に、患者の訴え・相談や診断・治療の要点をまとめた。一人で全責任を負わねばならない開業医は日々の診療に不安を感じながらも失敗の経験を成功の糧とし経験を積みながら、自身の最善を尽くして患者中心の医療を行っていかなくてはならない。現代の医療に必要なのは科学的根拠に基づいた医療（EBM）に医師の経験をプラスしたものである。

新興医学出版社

三三〇〇円

Dr.倉原の

呼吸にまつわる数字のはなし

倉原 優著

本書は、数字という切り口で呼吸器内科を解説している。数字というものは情

報ソースとして目立つものであり、視覚的に受け入れやすいという特徴がある。また、本書には四十四項目の呼吸器疾患に関する数字が紹介されており、その全てが堅苦しくないバラエティに富んだ文章で構成されていて、少レクスツと笑顔になるようなかわい四コマ漫画も散りばめられている。呼吸器内科を理解したいナース・研修医のための一冊。

メディカ出版

二〇〇〇円



呉澤森の鍼灸治療あれこれ

Q & A

呉 澤森・孫 迎春

臨床歴五十年、来日三十年の中医師による、鍼灸師のための問答集。

毎日の治療や、患者さんからの質問に対して疑問や不安を感じている鍼灸師は

数多い。鍼はなぜ効くのか、風邪をひいている患者に治療行ってもよいか、といった問いは根本的、日常的なものではあるが、必ずしも教科書に載っているわけではない。本書ではそれら現場の疑問を集積し、研修生と共に分配、論議を重ねた上で回答を出す。著者の長年の経験に裏打ちされた知識がすつきりとまとめられている。

医道の日本社

三四〇〇円

在宅医療カレッジ

佐々木淳編 「在宅医療カレッジ」は、医療、介護の多職種の学びの場で、ウェブ上にキャンパスを構えており、本書はそこで行われた講義のダイジェスト版である。多職種協働の重要性が叫ばれて久しいが、その連携はスムーズとは言い難く、自分の専門外領域について何を知らないかがわからない、ということさえある。本書は高齢者ケア、認知症ケア、地域共生社会の専門家による講義を多数収録し、専門外領域との接触を図る。カレッジがウェブ上で展開される利点を活かした編集がなされている。

医学書院

二二〇〇円

今月の  
おすすめ

## 人文科学

### マクダウエルの倫理学

萩原 理著

分析哲学の手法を用いた倫理学、心の哲学などの議論で知られる哲学者ジョン・マクダウエル。倫理学において近代に特有の見方を批判し、その偏見を「治療」しようとする彼の哲学は難解とされるが、本書では丁寧に解説されている。ブラックバーンをはじめとする現代の哲学者との論争なども紹介。『徳と理性』の翻訳に携った著者による初の解説書。

勁草書房

二五〇〇円

### 往生際の日本史

小山聡子著

古来、人は往生際を気にしてきた。「来世」の概念が成立すると共に、どうやってより良い来世を迎えるべきかを考えるようになったのである。『往生要集』の源信を始め、先の大戦の特攻兵まで、歴史上の人物がどんな死に支度をしていた

かを気鋭の歴史学者が書き下ろす。

偉人たちが死に際しては様々な心乱すのは、まことに人間味のあることよ。

春秋社

二〇〇〇円

### 終末論の系譜

初期ユダヤ教からグノーシスまで

大貫 隆著

この世の終わりが迫っているのではないかと……という漠然とした不安を一度は抱いたことがあるのではないだろうか。聖書の世界では紀元前二世紀のユダヤ教の中でこの不安が深まり、独特な終末論を生み出した。本書は、初期ユダヤ教の終末論からの聖書の終末論思想の通史を一般読者にも読み通ししやすいように書き下した著者渾身の集大成となる一冊。

筑摩書房

四二〇〇円

### 第一印象の科学

なぜヒトは顔に惑わされてしまうのか？

アレクサンダー・トドロフ著

私たちは、人を見てすぐに何かしらの印象を持つ。その印象は様々な要素から得られているが、私たちの周囲の人々の顔への関心は生まれた瞬間から始まり、他者の顔に注意を払うよう進化してきたのだそう。

何が顔の印象を作り、顔から何が読みとれるのか、またそれは正確なのか。本書には顔研究のすべてが記されている。

みず書房

三八〇〇円

### 人物図書館

くひとはだれでも一冊の本である

坂口雅樹編著

「人」が「本」となり、自らを語る。集まった聴衆が物語を共有し、また別の「本」が語りを始める。それが表題の人物図書館である。ピリオパトルを思い浮かべると想像も容易ではないだろうか。この興味深い試みの発案者、参加者達の様々な思いがまつた一冊。新たな交流の形として注目される。

郵研社

一八〇〇円



今月の  
おすすめ

文学・文芸

11の道

古井由吉著

命の深淵に、言葉を以て潜り込む。忘却の底にある死後の存在を信じないとしたら、人の言葉はそもそも、成り立つものだろうかという疑問を呈して、幼い日の昼の寝覚めの記憶や、明日をも知れぬ日々に点る予兆を書き綴った短編集。

折々に古典が引かれ、時間も空間も易々と渡っていくが、巡る思索は現在に着地する。

「戦中から敗戦後にかけて流転を見た家の子は、中年になってから定めた居を一途に守ってきて、避難者や居候の心をどこかに留めて、老いに入るにつれてそのかりそめの心が時に、変わりもせぬ日常の中へ訝りとなって上ってくるものか」。近年止むことなく起きる災禍を辿り、年を重ねても古びることのない季節を思う。春に読んでほしい。

講談社

一九〇〇円



ジャップン・ロール・ヒーロー  
鴻池留衣著

文章の大部分が「ダンチュラ・デオ」というバンドについて書かれたウイキペディア、という構成の小説。このダンチュラ・デオは、大学のバンドサークルに所属する、ある男がネット上に創り出した架空の存在だったはずだった。しかし、その楽曲をコピーし、発表したことで、バンドメンバーたちは国家的陰謀と、荒唐無稽ともいえる情報戦に巻き込まれていき、命を狙われるようになる。

ダンチュラ・デオのボーカルは、「僕」というアーティスト名を持つ。その結果、彼の出でくるウイキペディアの記述が、ことごとく「僕」の一人称に読めてしまうことは素晴らしく面白いし、読んでいくとすごく不思議な気分になる。

髪で耳のある位置をいつも隠していたゆえ、耳を持たないと噂された踊り子がいた。片方の手だけを着物でいつも隠していたゆえ、手がないのではないかと噂されたお姫様もいた。隠されると人びとは、ものをそこにあるのだとは思わずに、意識から失くしてしまう。それは、消されることを暗にファンから期待される、ダンチュラ・デオのよう。対し、バンドメンバーのベース担当アルルは、ダンチュラ・デオとは、神から与えられしもの、という意味の造語だと言いつつ。そのことに、すごく感動した。

ある形式が時代と共に消えても、そこで培われた文化はまた新たな形式に移行して、継承されていく。ウイキペディアのように。ダンチュラ・デオという名を持つメンバーが、僕という名を持つメンバーが、粛清されても、誰かによって「名付けられる」ことの下でバンドとして存在していくことのように。神から奪われるのではなく、与えられしダンチュラ・デオだから、彼らの行き着く先は、きっと新しいツアーに他ならない、そう思うのだ。

新潮社

一五〇〇円

今月の  
おすすめ

文庫・新書

番付屋新次郎世直し綴り

梶よう子著 たった一枚の番付が世間を大きく変えることもある。相撲の番付の形式を真似て、庶民が興味を惹きそななあらゆるものを格付けする見立番付は、流行りや話題がすぐに知れるので人気がある。ただ喜ばしいことばかりではなく、番付に入ったことで憂き目にあう人もいる。番付に因縁のある事件の真相に番付屋たちが迫る時代物。

主人公・廻り髪結いの新次郎には「番付屋」というもう一つの顔がある。新次郎の実家もまたかつて番付に入ったことがきっかけで潰れてしまい父と兄は死罪、兄の妻子も行方不明。勘当の身でどうすることもできなかった新次郎は真相を探るために番付屋になった。事件の真相を追う一方で、作り上げられる番付をもっとくわしく知りたくなる。

番付屋の仲間には料理屋の女将に板前、摺師彫師の兄妹にワケあり武士。おまけ

に昼行燈な役人に謎のご老体、人氣歌舞伎役者との一冊で終わってしまうにはもったいない登場人物ばかり。ここから始まるシリーズ一冊目。ぜひご一読を。  
祥伝社文庫 六八〇円

自炊力 料理以前の食生活改善スキル

白央篤司著

自炊。経済的にも健康のためにも、やらなければいけないのだからがなかなかできない、やっても楽しんでもできない。毎日の食事を三食きちんと作って栄養バランスも考えて……と気負ってしまふと、ストレスがたまることこのうえないのではないだろうか。

この本は、自炊とは何もかも自分で作ることだけを指すのではないという考え方で、自炊へのハードルを下げてくれる。その上で、ゆくゆくは栄養バランスのとれた献立を考えてお得に作って楽しく食べることができるようになる力をつけるためのヒントが満載。コンビニやスーパーでお惣菜やお弁当を買う、ということからも自炊は始まっているのだ。無理せず、できることから少しずつやってみよう、と思わせてくれる。

無理せず、できることから少しずつやってみよう、と思わせてくれる。

光文社新書

八〇〇円



シャーロック・ホームズ入門百科

小林 司／東山あかね著

今なお世界中で愛されている、名探偵シャーロック・ホームズ。映像作品から入った人も多いのではないだろうか。

あのシーンの元ネタは？ キャラクターをもっと掘り下げたい！という興味に、日本を代表するシャーロックアンの二人が答えてくれる入門書。

ホームズやワトソンなど登場人物のことはもちろん、物語の全六十篇のあらすじから当時のロンドンの様子まで、バランスよく収められたコンパクトな入門百科である。より深くホームズの世界を理解できる一冊は、ファン必携！

河出文庫

八三〇円

今月の  
おすすめ

芸術

おはらこそん  
小原古邨 花咲き鳥歌う紙上の楽園

太田記念美術館監修

太田記念美術館で二月から三月にかけて開催されている「小原古邨展」の公式図録として出版された本書。代表作を含む約一五〇点の作品が掲載されている。

明治生まれの小原古邨はその作品の多くが主に海外向けに販売されていた経緯もあり、長い間日本ではその名前はほとんど語られることがなかった。しかし昨年からは相次いで書籍が出版され、日本でも人気の高まりをみせている。

多くの花鳥画を残した小原古邨だが、彼の描く鳥の目や動物のフォルムはなんとも愛らしく、匂い立つような花からは生命力を感じる。

昨年未発売された『小原古邨の小宇宙』（青月社・二〇〇〇円）『小原古邨木版画集』（阿部出版・六〇〇〇円）も併せてオススメ。

東京美術

二二二〇〇円



鬼子の歌 偏愛音楽的日本近現代史

片山杜秀著

「鬼子」という言葉がある。意味は親に似ない子。乱暴な子。転じて、生まれると歓迎されにくいものを指すようになった。近現代においてその「鬼子」に当たるのは、日本の作曲家が創作した西洋クラシックの楽曲だと、著者は指摘する。

本書で取り上げられたのは山田耕筰や伊福部昭、武満徹、三善晃らが作曲した十四曲。並んだ作曲家の名前を見ると、日本の文化芸術を支えた大人物たちであることは疑いようがないように思える。しかし著者は、同時代の文学や美術と比較すると、彼らの曲が鑑賞され、論じられる機会は極めて少ないと感じている。

現・東京藝術大学音楽学部の前身で

ある東京音楽学校に、長らく作曲科は存在しなかった。そのことが当時から社会的に、西洋クラシックの創作が期待されていなかったことを証明している。しかしながら、作曲家たちが生み出さずにはいられなかった「鬼子の歌」。本書を手にも、今一度聴き直してみてもいかがだろうか。

講談社

三二二〇〇円

本をつくる 赤々舎の12年

産業編集センター編

写真に興味のある方であれば、「赤々舎」という出版社をご存知のことであろう。

写真集が売れないといわれるこの時代に良質な写真集を数多く出版し続ける「赤々舎」とは、どういった出版社なのだろうか。

赤々舎の代表・姫野希美さんへのインタビューと、赤々舎より写真集を刊行した写真家が語った姫野さんの姿から、赤々舎のこれまでの軌跡とこれからの展望についてひも解いていく。

著者と出版社の誠実な思いで一冊の本が出来上がると改めて感じられる一冊。

産業編集センター

一六〇〇円

今月の  
おすすめ

実用書  
地図・旅行書

色使いだけで

「今日おしやれだね」

と言われる

早川瑠里子著

それなりに服は持っているはずなのに今日着るべき服が分からない。散々迷った挙げ句時間がなくなつて、気がつけば何だか方向性が見えない格好に……。

コーディネートに自信がない。せっかく買ったのに合わせ方が分からない。何となく、地味。そんなあなたのお悩みは本書で解決！

合わせやすい基本色を使った定番配色から、休日や特別な日に試してみたいおしゃれな配色まで。シーンによって選べるコーディネートサンプル＋色見本を多数掲載。色相やトーンといった色の基礎知識、自分に合った色がるパーソナルカラー診断などを取り入れた「色の合わせ方」も紹介しているので、積極的に色が使えるように——！

色を味方に出来れば毎日の洋服選びはもつと自由にもつと楽しくなる。

大和書房

一四〇〇円

日本全国 境界未定地の事典

浅井建爾著

例えば海外旅行をするとき、なぜパスポートが必要なのだろうかとふと思う。海も山も陸も誰のものでもなくそこに存在していると思うのに、目に見えない線が引かれていることがとても不思議だ。しかしそこには確かに境界線があり、違う文化で違う生活が営まれている。

その境界線は国境だけでなく、日本国内にも無数に存在する。そんな中、日本において未だ境界が確定していない県境・市町村境や所属未定地を全て取り上げて解説したものが本書である。北海道にある湖一つが全て境界未定地であったり、半分が岡山県もう半分が香川県という小さな島の、岬から一五〇メートルだけ未だに県境が定まっていなかったりする。都会のど真ん中にある銀座にも境界未定地があるのは驚きだ。

それぞれの境界未定地には必ずそうなるに至った経緯があり、先人たちの様々

な歴史が秘められている。今自分が暮らしているこの町が、膨大な歴史の結果出来上がったものであり、またその歴史の中に自分はいふのだということをもふと感じるようなそんな一冊であった。

東京堂出版

二五〇〇円

ドライブイン探訪

橋本倫史著

昭和三十年頃、ドライブインは全国各地で大賑わいを見せていた。しかし、ファミレスやコンビニが田舎町まで浸透したいまでは、一軒、また一軒とその姿を消しつつある。現在でも営業を続けているドライブインのほとんどは、家族経営だそうだ。

鹿児島県の現役店舗「ドライブイン薩摩隼人」のご主人は、すでに八十代後半というお年である。彼は、本書のエピローグにて「この人生、ただ面白かった。それだけ。」と語る。その歩みとは……。

ドライブイン探訪。それは、思いがけず、町と人の歴史をたどる旅であった。知らない時代の、知らない世界の話を聞くことは、いつだってわくわくする。

筑摩書房

一七〇〇円

# 今月の おすすめ

## 語学・辞典

### 実戦力徹底トレーニング 話す英語

愛場吉子著

昨今の英語教育改革で注目されているのは「聞く・読む・話す・書く」の四技能である。

英語で話しかけたのに先方の返事が聞き取れない、理解できないという場面に遭遇して、焦った経験がある方も多いのではないだろうか。

現実のコミュニケーションでは、「読んで終わり」「言いたいことを話して終わり」のように一方通行で、一つの技能だけで完結するケースは少ない。英会話なら「聞く」と「話す」、仕事でのEメールのやり取りなら「読む」と「書く」といった技能を組み合わせる必要がある。本書は四つの技能ごとにトレーニングできるよう分かれているが、複数の技能を組み合わせて本当に使える運用力を身につけることがこのシリーズの目標だ。業務上の依頼や指示をする、といった具体

的なミッションを遂行時間内にこなしていく形式なので、飽きずに続けられるだろう。

同シリーズで『読む英語』『聞く英語』（各二五〇〇円）も好評発売中、『書く英語』は三月発売予定。

アルク 二五〇〇円

イラストでわかる！

### ネイティブの句動詞

投野由紀夫著

句動詞とは基本動詞と副詞・前置詞の組み合わせ。誰もが知っている単語の組み合わせなのに、意味が分からない、使い方が難しい、というのが問題点である。

この本はその句動詞にスポットを当てて、本格的に攻略するためのドリルである。ネイティブが使う句動詞を頻度順に集め、それらを会話例文と一緒に覚えていく。各例文にはイラストもついている。非常に見やすいし、イメージもしやすい。音声ダウンロードで日本語→英語のトレーニングをすることで定着をはかる。会話本に迷っていたらこの本がおすすめ。

アスク出版 一六〇〇円

### 辞書編集、三十七年

神永 暁著

肉体を牢獄に例えたのはプラトンだったが、本書の帯には「辞書編集とは刑罰である」と朱書きがある。なかなかにぬめりいい例えと思いきや、それがどうも例えではないらしい。

本書は『日本国語大辞典 第二版』をはじめとする多くの辞書の編集をしてきた著者の、入社から退社後の現在までを振り返るエッセイである。編集者として携わった辞書の紹介もされており、『ウソ読みで引ける難読語辞典』（小学館・一八〇〇円）『日本語便利辞典』（小学館・二〇〇〇円）など、これもか、と思うことしきりであった。どれも十年ほど前に現れ、辞書と呼ぶには親しみやすい雰囲気を持ち、読み物として楽しく、何より目的がハッキリした内容だから、お客様に勧めやすい。辞書を探しに来られたお客様の話を聞く中で「こんなありませんよ」と紹介すると面白がっていた。もっと踏み込んだ内容の辞典への入り口にも好適だった。現在編集者中だという『日国三版』も期待したい。

草思社 一八〇〇円

今月の  
おすすめ

児童書

ハッピー・ハグ

オーイン・マクラフリン文

ポリー・ダンバー絵

椎名かおる訳

かなしいハリネズミがいました。元氣が出る方法の一つだけ。だれかにハグしてもらおうこと。「ちょっとハグして下さいな」出会うみんなにお願いしてみるけれど、とがったとげに恐れをなしてか、だれもかなえてくれません。かなしいカメがいました。元氣の出る方法の一つだけ。だれかにハグしてもらおうこと。「むぎゅっとあついハグをおねがいできないかな」けれど固い甲羅がダメなのか、みんな逃げてしまいます。さあ、二人は自分にぴったりの相手が見つかるのかしら。手のひらサイズのかわいい絵本はギフトにもおすすすめ。あなたも、自分にぴったりのだれかに、ぜひ、プレゼントしてみては？

あすなろ書房

九五〇円



ちやのまのおざぶとん

かねこまさき作

お茶の間には五枚のおざぶとん。みんなのおしりと、毎日の暮らしをささえています。ときには、おひるねのお布団に。ときにはおぼっちゃんのスンドバッグに。そんなある日、晩ごはんのごはんや味噌汁がおざぶとんたちにかかってしまい、よごれてびしゃびしゃになってしまいます。おざぶとん、大ピンチ！

べしゃんこになったおざぶとんたちをふかふかにするのは、ちょっと意外な方法でした。昔ながらの干し方で、元通り以上にふつくらしなおざぶとんたち。きれいなふくをきて、今日もはりきって、みんなのおしりをささえています。

テレビでおなじみの「座布団といえ

また一興。ぜひ店頭で確かめてください。

アリス館

一三〇〇円

ルイジンニヨ少年

ブラジルをたずねて

かどのえいこ文 福原幸男絵

一九七〇年に刊行された角野栄子先生の記念すべきデビュー作がめでたく復刊。

一九五九年、二十三歳の時にブラジルへ自費移民として渡った角野先生。現地言葉で教えてくれたルイジンニヨ少年とその家族のこと、ブラジルの風景や暮らしなど、そのころの体験が、好奇心の塊のような若き先生の眼差しを通して生き生きと語られる。

海外旅行が自由にできなかった時代に、見知らぬ世界を見てみたい、感じてみたいと切に願ひ、恐れずに飛び込んでいく先生の行動力は、読んでいてすがすがしく、憧れてしまう。語り口調や表現はいまの「角野栄子節」そのままだが、希望にあふれた文体からは、書くことが楽しくてたまらないという初々しい思いが読者にもまっすぐに伝わってくる。先生の原点ともいえる作品だ。

ポプラ社

一八〇〇円

# ATION

<p>丸善            ≡ 名古屋本店 ≡            ☎(052)238-0320            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 名古屋栄店 ≡            ☎(052)212-5360            [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善            ≡ 名古屋セントラルパーク店 ≡            ☎(052)971-1231            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ ロフト名古屋店 ≡            ☎(052)249-5592            [営業時間] 10時半～20時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 名古屋店 ≡            ☎(052)589-6321            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善            ≡ 岐阜店 ≡            ☎(058)297-7008            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善            ≡ 四日市店 ≡            ☎(059)359-2340            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 滋賀草津店 ≡            ☎(077)569-5553            [営業時間] 10時～22時</p> <p>丸善            ≡ 京都本店 ≡            ☎(075)253-1599            [営業時間] 11時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 京都店 ≡            ☎(075)252-0101            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店            ≡ 高槻店 ≡            ☎(072)686-5300            [営業時間] 10時～22時</p> <p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店            ≡ 梅田店 ≡            ☎(06)6292-7383            [営業時間] 10時～22時</p> <p>丸善            ≡ 八尾アリオ店 ≡            ☎(072)990-0291            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善            ≡ 高島屋大阪店 ≡            ☎(06)6630-6465            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 大阪本店 ≡            ☎(06)4799-1090            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 難波店 ≡            ☎(06)4396-4771            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 天満橋店 ≡            ☎(06)6920-3730            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 上本町店 ≡            ☎(06)6771-1005            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 近鉄あべのハルカス店 ≡            ☎(06)6626-2151            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 奈良店 ≡            ☎(0742)36-0801            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>ジュンク堂書店            ≡ 西宮店 ≡            ☎(0798)68-6300            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 芦屋店 ≡            ☎(0797)31-7440            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 神戸住吉店 ≡            ☎(078)854-5551            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 三宮駅前店 ≡            ☎(078)252-0777            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 三宮店 ≡            ☎(078)392-1001            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 神戸さんちか店 ≡            ☎(078)335-2877            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 舞子店 ≡            ☎(078)787-1250            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 明石店 ≡            ☎(078)918-6670            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 姫路店 ≡            ☎(079)221-8280            [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善            ≡ 岡山シンフォニービル店 ≡            ☎(086)233-4640            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>丸善            ≡ 広島店 ≡            ☎(082)504-6210            [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 広島駅前店 ≡            ☎(082)568-3000            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 高松店 ≡            ☎(087)832-0170            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 松山店 ≡            ☎(089)915-0075            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善            ≡ 博多店 ≡            ☎(092)413-5401            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 福岡店 ≡            ☎(092)738-3322            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 大分店 ≡            ☎(097)536-8181            [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善            ≡ 天文館店 ≡            ☎(099)239-1221            [営業時間] 10時～20時半</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 鹿児島店 ≡            ☎(099)216-8838            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店            ≡ 那覇店 ≡            ☎(098)860-7175            [営業時間] 10時～22時</p>
---	---	--	---

<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 札幌店 ＝</b>            ☎(011)223-1911            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 水戸京成店 ＝</b>            ☎(029)302-5071            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 渋谷店 ＝</b>            ☎(03)5456-2111            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ プレスセンター店 ＝</b>            ☎(03)3502-2600            [営業時間] 11時～19時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 旭川店 ＝</b>            ☎(0166)26-1120            [営業時間] 10時～19時半</p>	<p>丸善  <b>＝ 丸広百貨店飯能店 ＝</b>            ☎(042)973-1111            [営業時間] 10時～19時</p>	<p>丸善  <b>＝ 丸の内本店 ＝</b>            ☎(03)5288-8881            [営業時間] 9時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 大泉学園店 ＝</b>            ☎(03)5947-3955            [営業時間] 10時～22時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 弘前中三店 ＝</b>            ☎(0172)34-3131            [営業時間] 午前10時～午後7時</p>	<p>丸善  <b>＝ 丸広百貨店東松山店 ＝</b>            ☎(0493)23-1111            [営業時間] 10時～19時</p>	<p>丸善  <b>＝ 日本橋店 ＝</b>            ☎(03)6214-2001            [営業時間] 9時半～20時半</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 吉祥寺店 ＝</b>            ☎(0422)28-5333            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 盛岡店 ＝</b>            ☎(019)601-6161            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 大宮高島屋店 ＝</b>            ☎(048)640-3111            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ お茶の水店 ＝</b>            ☎(03)3295-5581            [営業時間]            月～金10時～20時半            土10時～20時            日・祝10時～19時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 立川高島屋店 ＝</b>            ☎(042)512-9910            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 秋田店 ＝</b>            ☎(018)884-1370            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>丸善  <b>＝ 桶川店 ＝</b>            ☎(048)789-0011            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 多摩センター店 ＝</b>            ☎(042)355-3220            [営業時間] 10時半～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 横浜みなとみらい店 ＝</b>            ☎(045)323-9660            [営業時間] 11時～20時</p>
<p>丸善  <b>＝ 仙台アエル店 ＝</b>            ☎(022)264-0151            [営業時間] 10時～21時            日・祝10時～20時</p>	<p>丸善  <b>＝ 津田沼店 ＝</b>            ☎(047)470-8311            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 有明ワンザ店 ＝</b>            ☎(03)5530-5701            [営業時間] 10時～19時半</p>	<p>丸善  <b>＝ ラゾーナ川崎店 ＝</b>            ☎(044)520-1869            [営業時間] 10時～22時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 仙台TR店 ＝</b>            ☎(022)265-5656            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 舞浜イクスピアリ店 ＝</b>            ☎(047)305-5808            [営業時間] 11時～21時            土・日・祝10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ メトロ・エム後楽園店 ＝</b>            ☎(03)5684-5130            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 藤沢店 ＝</b>            ☎(0466)52-1211            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 新潟店 ＝</b>            ☎(025)374-4411            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 南船橋店 ＝</b>            ☎(047)401-0330            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 新宿京王店 ＝</b>            ☎(03)5321-8327            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 岡島甲府店 ＝</b>            ☎(055)231-0606            [営業時間] 10時半～19時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 郡山店 ＝</b>            ☎(024)927-0440            [営業時間] 10時～19時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 柏モディ店 ＝</b>            ☎(04)7168-0215            [営業時間] 10時半～20時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 池袋本店 ＝</b>            ☎(03)5956-6111            [営業時間] 10時～22時</p>	<p>丸善  <b>＝ 松本店 ＝</b>            ☎(0263)31-8171            [営業時間] 10時～20時</p>
			<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 新静岡店 ＝</b>            ☎(054)275-2777            [営業時間] 10時～21時</p>

営業時間は変更する場合がございます。ご了承ください。

定休日については、お手数をおかけしますが弊社HPまたは直接各店までお問い合わせ下さい。





## 「卵が先か」

うちから歩いて十分ほどの場所に大きな図書館がある。我が家の子どもたちは毎週十冊ほどの本を借りて読んで週末に返却し、また新しい本を借りてくる。

彼らの読書欲は絵本の読み聞かせのせいか、両親が暇を見つけては本を読むのを目の当たりにする環境からか高まつていくばかりで収まらず、それを賄おうとする時に図書館とは大変ありがたい存在である。

人間の生活環境が増え続ける本に脅かされる姿を私たち夫婦は過去に体験していたので、出来る限り新しく迎える本は少なくするために図書館を利用していた

はずだし、何より子どもが産まれてから今まで四度の引越しを経た私たち夫婦の蔵書はその度に大きく減じて最盛期の半分まで落ち込んでいたはずなのだが、『本にだって雄と雌があります』（小田 雅久 仁著、新潮社）というのは恐らく本当なのだろう。我が家の床や机にはいつの間にか増えた書籍が本棚から溢れ、積み上がる姿が見受けられる。対策を講じていたにも関わらず、いつの間にかこんなことになっていったのか、こちらが気づかない間に少しずつ、しかし間断なく増えていったのだ。本当に恐ろしいことである。

この環境を改善するためには彼ら、彼女らに出て行って頂くのが人間の生息域を確保するためには最善なのだけれども、子どもが大きくなってきた現在では私たち夫婦の本を長男が読み、その長男の本を弟が読むという状況になっており、読み終わったからと簡単にそれぞれ

の本へ暇を出す事が難しくなっている。現実の体から解放して電子の海に流れて頂くという方法もあるのだけど、手間や端末の問題もあって、今のところは将来的な計画として考えてはいる程度だ。

そうなると彼らと我々の居場所を明確にすべく、新しく床から天井まで伸びる大型の本棚の建設を決定したのだけれど、これから長く使うであろう家具を作るにあたって、どのような形や色にするのか、折角だから本棚だけじゃなくて台所の棚も増設したい、などと様々な意見が出されるので、まずは他所様の素敵な家具を拝見しようとインテリア雑誌などを眺めながら細々と新たな資料を手に入れたりしていると、机の上にはまた本が増えているような塩梅で、とりあえず今は本を上手に片付けるための本を読んで対策を取るべく探している。

(丸)

## 「書標 ほんのしるべ」 第484号

編集・発行人 工藤 恭孝

発行所 ㈱丸善ジュンク堂書店

印刷所 ㈱七 旺 社

二〇一九年三月五日発行 頒価五十円（本体四十六円）

〒160-0008

〒653-0012

東京都新宿区四谷三栄町十一番二十四号 ニューワールドビルディング  
神戸市長田区二番町四丁目二十七番地

「書標 ほんのしるべ」昭和61年7月15日第三種郵便物認可  
2019年3月5日発行（毎月1回5日発行）通巻第484号

MARUZEN JUNKUDO × サマリーポケット

預けた本は一覧で管理。タイトルや作者もデータ登録！

文庫本なら1箱に130冊入ります！

サイズ：幅35cm × 奥行33cm × 高さ29cm



丸善ジュンク堂書店のお客様限定プラン！

3箱保管プラン | 通常月額1,200円 ▶ 20%OFF 960円

5箱保管プラン | 通常月額2,000円 ▶ 30%OFF 1,400円

詳細はこちらから



<https://spkt.jp/maruzen>

※バーコードを読み込んで画像やタイトルをデータ登録します。バーコードがないもの等は適宜まとめて写真を撮影します。※価格は全て税別表示です。

ご利用方法は簡単4ステップ



1 専用サイトで申し込み



2 届いたボックスに本を詰めて送るだけ



3 預けたものはPC・スマホで管理



4 使いたい時、最短翌日に取り出せる

本の保管場所に悩む、すべての方へ

ジュンク堂書店  
淳久堂書店

MARUZEN

頒価 五十円（本体 四十六円）